

(5) ストック

主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
モザイク病 (TuMV, CMV) (アブラムシ類)	<p>①被害苗や株は直ちに取り除き、適切に処分する。</p> <p>②育苗期には目合い1mm以下の防虫ネットなどにより、アブラムシ類の飛来を防ぐ。</p>	<p>①ウイルスを媒介するアブラムシ類を農薬で防除する。 (例) アセタミプリド水溶剤、くん煙剤（モスピラン顆粒水溶剤（花き類・観葉植物（ストック、りんどうを除く））、モスピランジェット（花き類・観葉植物（トルギキョウを除く）） イミダクロプリド水和剤（アドマイヤフロアブル）（花き類・観葉植物（きくを除く）） ピメトロジン水和剤（チエス顆粒水和剤）（花き類・観葉植物） ピリフルキナゾン水和剤（コルト顆粒水和剤）（花き類・観葉植物（チューリップを除く））</p>
	<p>【参考事項】 アカザ科、アブラナ科、キク科、マメ科植物にも発生し、アブラムシ類により伝染する。</p>	
菌核病 (Sclerotinia)	<p>①過繁茂にならないようにするとともに、通風、換気、排水を良くし、過湿を避ける。</p> <p>②発病株は早めに抜き取り、適切に処分する。</p>	<p>①発病初期から農薬を散布する。 (例) イミノクタジン酢酸塩・ポリオキシン水和剤（ポリベリン水和剤） チオファネートメチル水和剤（トップジンMゾル、トップジンM水和剤（花き類・観葉植物（トルギキョウを除く））</p>
	<p>【参考事項】 被害株にできた菌核が落ちて伝染源になる。菌核は、土壤中で2~3年生存する。キャベツ、ナス、レタスなど、各種作物を侵す。発病の適温は15~20℃である。</p>	
炭疽病 (Colletotrichum)	<p>①発病ほ場の残さはほ場から持ち出し、適切に処分する。</p> <p>②頭上からの灌水を避ける。</p>	<p>①発病初期から農薬を散布する。 (例) チラウム水和剤（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）</p>
	<p>【参考事項】 被害茎葉上に形成された胞子が雨滴や灌水の飛沫で伝染する。発病の適温は20~30℃である。</p>	
コナガ	<p>①育苗期から目合い1mm以下の防虫ネットで被覆する。</p> <p>②周辺のアブラナ科野菜での発生に注意する。</p> <p>③ほ場周辺の除草を行う。</p>	<p>①定植時に粒剤を全面土壤混和又は株元散布する。 (例) カルボスルファン粒剤（ガゼット粒剤） ベンフラカルブ粒剤（オンコル粒剤5）</p> <p>②発生初期から農薬を散布する。 (例) エマメクチン安息香酸塩乳剤（アファーム乳剤） クロルフェナピル水和剤（コテツフロアブル） レピメクチン乳剤（アニキ乳剤）</p> <p>③微生物農薬を利用する（微生物農薬の項参照）。 (例) BT水和剤（エスマルクDF（花き類・観葉植物）、ゼンターリ顆粒水和剤など）</p>
	<p>【参考事項】 特に秋の幼虫の被害に注意する。 散布剤は葉裏にも薬液を十分散布する。 抵抗性系統を発生させるおそれがあるので、同一系統農薬の連用は避け、ローテーション防除に努める。</p>	